

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間: 2017年4月1日～2018年3月31日)



2018年6月21日

東京特殊車体株式会社

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境経営方針	2
3.	環境活動の実施体制	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5
5.	環境経営目標(中期3ヶ年計画)	7
2017～2019年度		
6.	今年度の環境経営目標と実績、次年度の取り組み	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無	10
8.	代表者による評価および見直し	10

1. 組織の概要

1. 事業所名
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名
取締役社長 八木 英樹
3. 所在地
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者
取締役総務部長 中村 伸一
連絡先：TEL: 042-644-3517 E-Mail : shinichi.nakamura@toutoku.co.jp
5. 事業の規模
資本金 : 40,000 千円
年商額 : 2,694 百万円(2017 年度実績)
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 99 両 (2017 年度実績))
従業員数 : 66 名 (2018 .3.31 現在)
延床面積 : 6,084 m²
敷地面積 : 9,312 m²
6. 事業活動の内容
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	: 東京特殊車体株式会社
関連事業所	: なし
登録対象外	: なし
活 動	: 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境経営方針

環境経営方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達の推進
2. 環境保全活動を継続して実施するため、具体的な環境経営目標・活動計画を策定して取り組みます。また、環境目標は定期的にあるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境活動レポートとして公表します。

制定 2017年 4月 1日

東京特殊車体株式会社
取締役社長 八木 英樹

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

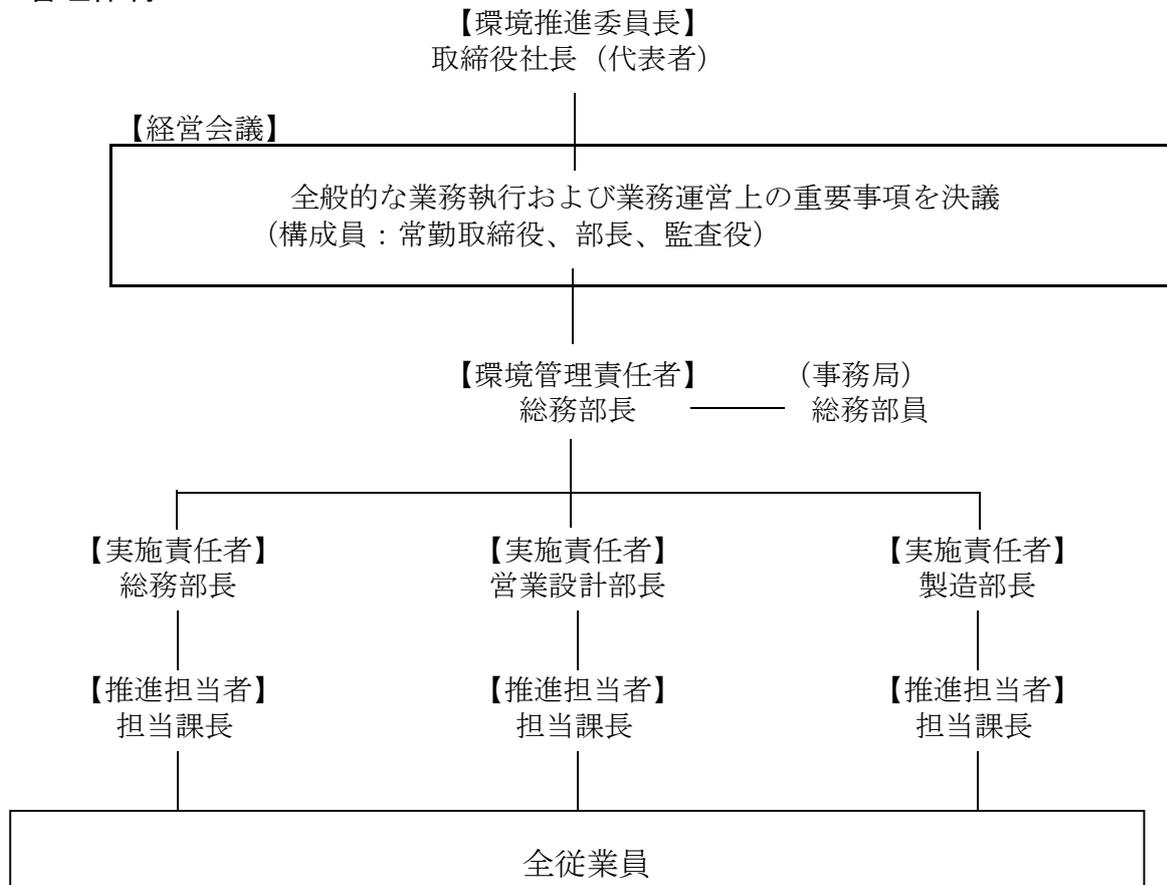
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組めます。

3. 東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任	
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の推進 環境管理責任者の任命 環境活動の評価、見直し（毎年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の作成 経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 活動の構築、運用 各種会議体の開催 代表者への報告 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局運営 取組み状況の確認と改善 外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境責任者、運営のサポート 環境活動レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの取得、記録 啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の統括 推進担当者のフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の実務推進 環境活動の実施状況の報告 取組みに対する意見の集約、具申 	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 環境活動への参加、環境計画の実行 	

4. 過去3年間の環境負荷の状況

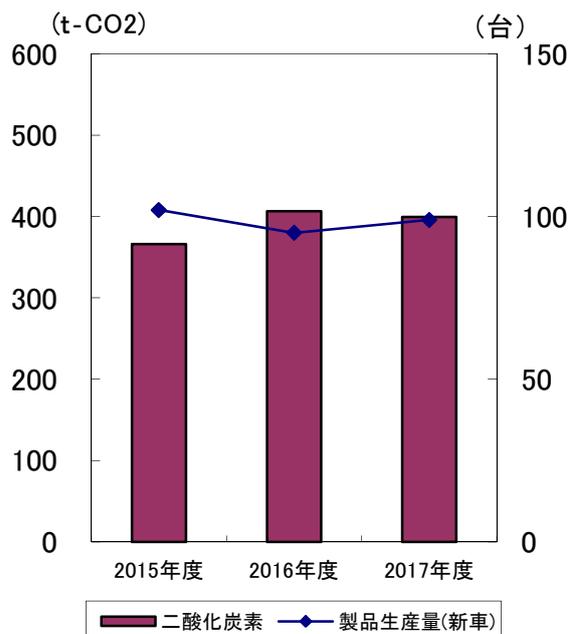
環境への負荷(指標及び種類)		単位	2015年度	2016年度	2017年度
			2015.4-2016.3	2016.4-2017.3	2017.4-2018.3
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO ₂	365.9	406.4	399.5
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	126	132	126
		焼却処理	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	54	51	60
③-1 総排水量	下水道	m ³	1,300	1,034	1,116
③-2 水使用量	上水	m ³	230	218	289
	地下水	m ³	1,286	990	1,004
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	3,139	3,024	2,497
	都管理物質	kg	3,415	3,961	3,747
	総排出量	kg	4,188	4,568	4,227
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,686,240	6,263,952	5,869,309
	化石燃料	MJ	2,503,353	2,796,896	2,947,597
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	354.0	329.2	291.3
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質	-	対象なし	対象なし	対象なし
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	102	95	99

※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

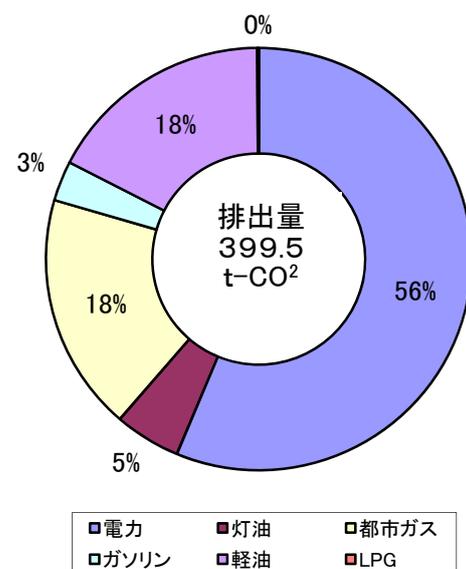
2014年度までは 0.377kg-CO₂/kWh

2015年度からは 0.382kg-CO₂/kWhで算出してます

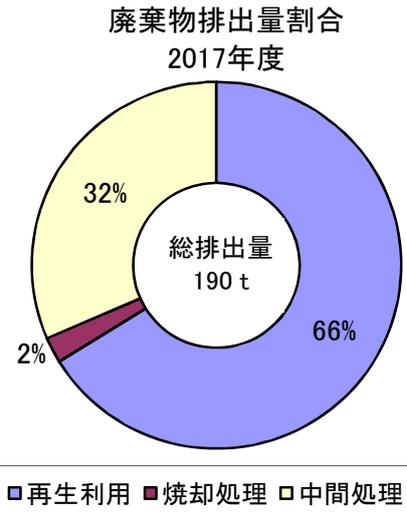
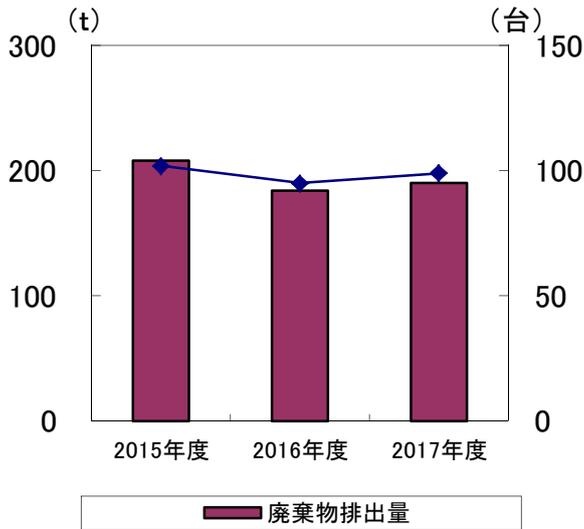
二酸化炭素排出量と生産量



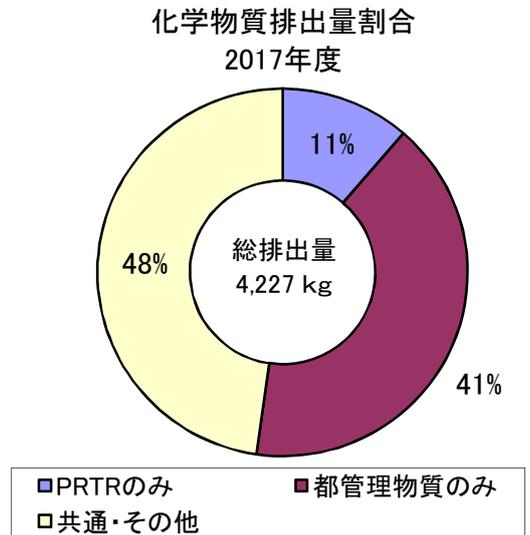
二酸化炭素排出量割合
2017年度



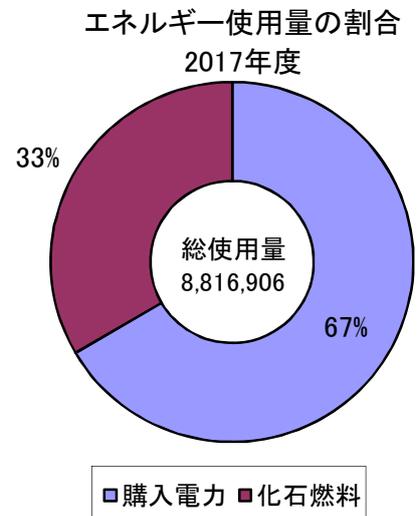
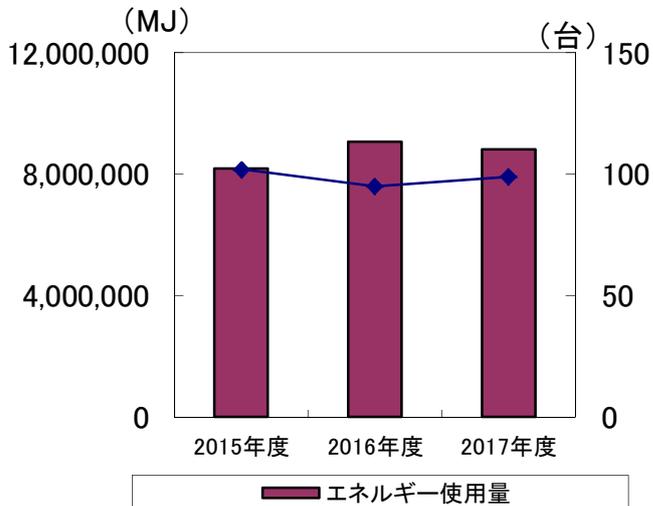
廃棄物排出量



化学物質使用量



エネルギー使用量



5. 環境目標(中期3ヵ年計画)

2015年度～2017年度

環境中期目標の主要項目

2015年6月 制定

重点施策	目的	環境目標			
		2015年度	2016年度	2017年度	
1 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	378.9	375.1	371.3
		使用電気量削減 (kWh)	593,900	587,960	572,080
		都市ガス使用量削減 (m ³)	31,680	31,365	31,050
		灯油使用量削減 (ℓ)	9,505	9,410	9,315
		水使用量削減 (m ³)	1,255	1,245	1,230
		化学物質使用量の削減 (kg)	5,346	5,293	5,240
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産業廃棄物排出量の削減 (kg)	58,510	57,925	57,345
2 環境取組への取組の推進・向上	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	事務用品 購入	事務用品 購入	事務用品 購入
	2.2 環境コミュニケーションの実施	業界団体の環境活動への参加	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認
		地域住民との交流 外部情報の活用	工場公開継続 環境教育計画の策定 廃棄物業者訪問 展示会の見学 エコツアーへの参加	工場公開継続 廃棄物業者訪問 展示会の見学	工場公開継続 環境教育継続
2.3 その他	省エネ 廃棄物減量	工場照明のLED化 事務所エアコン更新 エア漏れ量の削減 廃棄缶圧縮機導入	工場照明のLED化 塗装工場の省エネ化 デマンドシステム更新	工場照明のLED化	

電力の CO₂ 排出係数は 0.382 kg-CO₂/kWh です

6. 今年度の環境経営目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2017年4月～2018年3月 (製造台数 99両)			今期の振返りと次年度の取り組み	
			実績	対目標	評価		
環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	371.3	399.5	107.6%	×	本工場雨漏り対策のため、天井部あかり取り窓封鎖の影響を受け、本工場照明使用時間が増加した。 これに合わせ高天井照明のLED化を進めていたが、実現時期が2018年3月完成となったため、その効果は見られなかった。 次年度以降の傾向、量の推移を注視する。
		使用電気量削減 (KWh)	572,080	588,697	102.9%	△	
		都市ガス使用量削減 (m ³)	31,050	33,379	107.5%	×	工程の都合上、夏季でも車両塗装の間隔が狭まり、ガス使用機会が増えた。また、最寒期2月の車両塗装数が増えたため、目標が未達であった。新しい傾向を見て、対策を考える。
		灯油使用量削減 (ℓ)	9,315	8,087	86.8%	○	昨年度の良い状態を継続している。
		水使用量削減 (m ³)	1,230	1,293	105.1%	×	製作車両数の増加による使用量増加がみられる。
		化学物質使用量の削減 (kg)	5,240	4,227	80.7%	○	健康障害防止等のため、塗料の環境対応を進めた結果、トルエンやキシレン類の使用量低下がみられる。 今後他のシンナー類も環境対応を進めて行く。
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃棄物量の削減 (kg)	57,345	60,250	105.1%	×	本工場耐震補強工事に伴い、工場内の一層の整理活動を進めた結果、廃棄物量が増えたと考えている。 次年度以降の傾向、量の推移を注視する。

電気のCO₂排出係数は 0.382Kg-CO₂/kWh で計算しています

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2016年4月～2017年3月 (製造台数 95両)		今期の振り返りと次年度の取組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	事務用品の優先購入	・購入品の選別	統一カタログによる購入の継続	○	今後も継続する。
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参加	・車工会環境フリー宣言活動 ・環境事例発表会へ参加	7月にフリー宣言を継続 7月の事例発表会に出席	○	環境経営への配慮を行う。
		地域住民との交流 情報提供	・工場公開の実施	隣接している京王重機整備(株)と合同 で工場公開を11/19に実施	○	工場公開来場者325人。次年度も継続を 計画している。
	2.3 その他	省エネ・設備更新	・工場照明のLED化	・高天井照明、本工場内通路用照明 をLED化の上、更新が実現した ・上記LED照明のエリア別スイッ チ化が実現した	○	工場照明の効率的な利用が可能になっ たため、今後その運用推進を行う。

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

本年度は工場敷地の拡大を含めた本工場の耐震工事に終始した1年で有りました。本業の車両製造以外の事務所棟の新設に伴う床面積の増加と、工場内作業場所の移動による旧設備の撤去廃棄による産業廃棄物や電気消費量の増大に表れております。この機会に、工事部分の天井水銀灯や蛍光灯のLED化と、休憩室等の空調設備の省エネ化を行いました。

新たに導入した設備により、次年度は数値の改善につながる様、設備の運用ルールを再構築し結果を追跡する所存で有ります。

フロン排出抑制法による、第一種特定製品の簡易点検、及び業界団体の「車工会環境負荷物質フリー宣言」は共に定着化している状況に有ります。

化学物質については 昨年度から「環境に配慮した塗料」への切替えを行った効果が、環境経営への貢献に認められています。

エコアクション21の2017年版移行による活動は、品質システムISO9001と合せた「環境・品質経営システム」として、全社の業務改善活動（ONE1019）の中で活動を一層進めて参ります。